

# すそみ点滅交差点

## 繭玉のお菓子



繭玉のお菓子は、今となっては味わつことのできない幻のお菓子です。紅白のお菓子で、1袋(10個入り)20円で春喜屋さんで売られていました。春喜屋さんは、養蚕の神さまで日本一社として名高い番影神社の石段下にあるお店です。現在は、3代目の皆川光雄さん(79歳)が経営しています。春喜屋さんに、このお菓子を製造した銅製の型が残っています。ずしりと重い焼き型は年代を感じさせるものでした。もち米を原料に、あるもの(企業秘密)を混ぜ、この型に入れ炭火で焼きます。すると、ふんわりふつくと繭の形になります。砂糖をまぶして出来上がり。ほんのり甘く、サクサクとしたお菓子だったそうです。当時は下館の専門の職人さんが焼き、オートバイで春喜屋さんまで卸してくれていました。その職人さんも今は亡くなり、もう作

ることができなくなっていました。

また、春喜屋さんでは、神郡の桜井菓子店(アンドーナツが有名)製造の、蚕にちなんだ桑の葉模様のお菓子も売っていました。これは、もち米を粉にしたみじん粉に、砂糖と水飴を入れてかため、型で焼いたお菓子。白いお菓子ですが、桑の葉模様の部分のみ、緑に彩色したそうです。桜井菓子店主の桜井実さん(72歳)にこのお菓子の型をみせてもらいました。木製の型は、長く使い込んだ黒々としたものでした。

消えてしまったお菓子はどのような味がしたのでしょうか。もはや私達には想像するしかありません。遮那ひろみ(神郡地区)



焼き型を前にお話される皆川さん

桜井菓子店の木製の型

# すそみスケッチ



ちよつと違つぞ、すそみの地震

古来、筑波山周辺は地鳴りの名所として知られ、「寺田寅彦随筆集」や現代の地震学の教科書にもちゃんと書かれています。

揺れ始める直前に「ゴォー」と聞こえるので、その一瞬の差で心構えが出来る為か、揺れ出してもそれ程には魂消ないで居られます。

地鳴りの神々しくも低い音色を聞くと、普段は忘れていた警句を思い出します。「天災は忘れた時分に来る」伝・寺田寅彦(横井俊明(六所地区・地震研究者)編集を終えて.....)

「すそみ」の魅力は、筑波山麓の自然豊かな景色の美しさだけでなく、ここで暮らす人々のおおらかさ、温かさにあります。現代社会で希薄になった人と人の絆や子どもたちを育む地域力が健在です。連続と続く歴史の中にある日々を暮らしを大切にこそ、地域の未来があるのです。地域外からの「すそみ応援団」、学びつつ出番を模索中です。(T)

「すそみろく」は、都市「農村をむすぶ」ゆいづくりプロジェクトの一環として三井物産環境基金から一部助成をいただいています。デザイン:小沢陽子(漆所地区)



第4号

筑波山の山麓一帯を「すそみ」と名づけました

第4号(平成19年6月30日) 発行・すそみろく編集委員会 TEL029-863-5151(NPO法人つくば環境フォーラム内)



# アンケートにみる 子供の遊び 昔と今

アンケート結果

子供の頃よく遊んだ遊びは?  
子供には「よく遊んでいる遊び」は?

祖父]	ベゴマ	めんこ	竹馬
	かくれんぼ、	兵隊ごっこ	
祖母]	お手玉	おはじき	縄跳び
	石けり、	まりつき	
親・父]	缶けり	野球	
	釣り、めんこ、	ビー玉	
親・母]	缶けり	かくれんぼ	
	ゴム跳び	鬼ごっこ	
子・男子]	ゲーム	サッカー	野球
	鬼ごっこ	カード	
子・女子]	ドッチボール、	ブランコ	
	お絵描き、	ゲーム、読書、	鉄棒

田井エンジョイクラブでは、学校と地域の距離を縮めるため、田井小学校に地域の大人を招いての「昔遊び」を計画。そこで、昔と今の遊びの違いを調べるため、児童と父母、祖父母にアンケートを実施しました。

遊びには時代背景が影響している。祖父母の「兵隊ごっこ」や「陣地取り」は、戦時中か戦後間もない時代を反映している。また、少数ながら「農作業などの手伝い」が「遊び」にあった。そういえば40代の私が子供の頃の遊び、「魚釣り」の魚も晩飯のおかずだった。子供は家族という集団で大事な役割を果たし、農業や風呂炊きなど「手伝い」が「遊び」だったのだ。

当然今の子供の遊びは予想通り「ゲーム」が多い。しかし、スポー

や事故の多いのは「時代」のせいと言われるが、その二文字で片付けることはできない。大人でも楽しいゲームを、子供たちからただ取り上げることもしたくない。

家や学校の窓から見えるのは筑波山をはじめとした緑と空の青さ。恵まれた自然に抱かれながら、出来るだけ戸外で大勢の子供たちとともに遊んでもらいたいと願う。そこには社会性や感受性を養う上で役立つものが必ずあるはずだ。大人は、子供が安心して暮らせる

地域社会をつくるよう努力したい。杉田信司(田井エンジョイクラブ)

田井エンジョイクラブとは  
田井の子供たちの健全な育成と安全・安心な学校生活の支援を目的に、会員自らも活動を楽しみ、子供共々健全な心身を育もうと平成18年10月4日に発足。学校での「炭焼き」のお手伝いや「昔遊び」の実施、自然豊かな田井の名所や通学路のウォーキング、周辺山々のハイキングなどの活動を展開しています。

029-869-5550  
お問合せは結エディットまで

協賛会員「すそみサポーター」募集中! 一口3000円	神郡瓦造形研究会 029-8557-3355	EX-CH (有)電脳賃貸 029-966-305330	ウエムシ・インフォメーションサービス つくば市北条 029-867-1717	つくば市北条 (有)ヒタ木材	つくば市吉瀬 つくば環境フォーラム 田中ひとみ	つくば市西根 筑波大学教授 出口正義	つくば市小沢 上野節子	つくば市白井 諷川隆雄	つくば市白井 菊地つよい	つくば市神郡 神郡区長 櫻井誠	つくば市神郡 つくば市神郡 600年祭の折形法教授 飯田猷子
----------------------------	---------------------------	---------------------------------	---	----------------	-------------------------------	--------------------------	----------------	----------------	-----------------	-----------------------	---

すそみサポーター 敬称略

私たちが応援してます!



田井エンジョイクラブのメンバー



# 伝えたい田井の民俗行事



満月の夜は「大麦小麦」で

豊作を願う

私の住む小沢の地区では、毎年十五夜の夜に「大麦小麦」という年中行事が行われます。

この日は夕方になると、熊野神社の境内に、小学1年生から6年生の男子がわらで編んだ長さ50〜60センチ位の細長い棒を持って集まり、集落の家々をまわって歩きます。

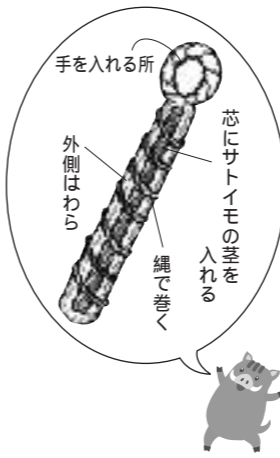
玄関先で、リーダーの中学1年生の笛を合図に、「おおむぎ、こむぎ、さんかくばった、そばあたれ…」と元気な声で歌いながら、わらの棒を地面に力強く打ちつけます。大麦も小麦も、三角畑のそばもたくさん収穫できますようにという、豊作を祈る行事です。

地面をわらの棒で打ちつけるのは、地面の中にいるモグラや害虫を追い払うためだそうです。大麦小麦の歌

が終わると、訪れた家の人から、お小遣いがもらえます。50軒ある小沢の集落を2時間ほどかけてまわったあと、集まったお小遣いはみんな分けて合います。学年の上の人ほどたくさんもらえるそうですよ。

以前はあちらこちらで行われていた「大麦小麦」も、今では小沢地区にしか残されていません。中秋の名月の夜に、縁側にすきや栗の実を飾り、団子や里芋、赤飯などを供えて稲の豊作を祈りました。昔の人たちの願いがこめられた「大麦小麦」の風習は、これから先もずっと受けつがれていってほしいものです。今年9月25日の十五夜に行われます。

上野節子(小沢地区)



杉ノ木稲荷万燈

かつては、多くの祭礼に光を点していた万燈も、今ではほとんどが姿を消してしまっています。この地区で唯一続いている杉ノ木稲荷万燈が

今年8月19日(日)に行われます。

その日は昼過ぎから地区の人たちが集い、神社を清掃し、万燈をつくります。出来上がった約30基の万燈は夕方5時くらいから神社までの参道に並べていきます。万燈に絵を描くのは田井小学校杉ノ木地区の子供たち。夏休みを利用して、マンガやキャラクターなど思い思いのものを描きます。児童数が減った今、子供たちはひとり何枚もの絵を描かなくてはなりません。

20年位前までは太鼓の奉納もありました。「村囃し」と「さざり」という曲を1年おきに演奏していたそうですが、今では太鼓も壊れ、「村囃し」を演奏できるのも石嶋徳一さんお一人になってしまいました。子供たちの夢をのせた万燈の光がこれからも灯り続けるとともに、かつてのにぎやかだった太鼓の音の復活を願わずにはいられません。

小沢陽子(漆所地区)



古い太鼓を懐かしむ石嶋さん

## 7.8月

### すそみ歳事記

お話：櫻井誠さん

聞き手：里山建築研究所 居島 上野

- 8月 1日 カマブタツイタチ 釜蓋一日
- 7月 21日 青屋着 青いススキ等の芯で箸を作り、夜うどんを食べる(家族の健康を祈願)
- 30日 茅輪くぐり 子供がススキ等を束ね一人通れる輪をつくり頭からかぶって潜りぬける
- 8月 6日 墓なき お墓を掃除する日 仏様が迷わず自分の家に帰れるようにお墓までの道筋の草取りも行った
- 7日 七夕 6日に飾り付けを行い、7日の朝には川に流す



絵：櫻井麻衣(田井小学校6年)

- 13日 迎え盆 きゅうり、茄子で馬をつくり仏壇に飾る
- 16日 送り盆
- 9月 1日 八朔 カヤの箸でうどん又は赤飯を食べる(嵐除けの祈り)
- 25日 十五夜 ススキは5本、ダンゴは5個供える

## インフォメーション

平沢万灯参加者募集!  
あなたの描いた絵や文字が万灯となって夏まつりを彩ります。半紙に絵や文字を描く個人やグループを募集/8月18日(土)午後6〜9時、平沢官衙遺跡から平沢八幡神社まで600mの夜道を照らし、荘厳な光の回廊とします。遺跡に復元された3棟の古代の正倉院もライトアップ!/参加費万灯1基2千円(半紙4枚)/申込者に半紙と参加費振込用紙を送付。参加費は平沢万灯夏まつりの開催資金に充当/「問」平沢官衙遺跡案内所029-867-5841

「すそみの田んぼ」榎田の米づくり  
7月15日(日)10〜15時/田んぼ作業と生きもの観察会・イノシシ除け柵作り参加費900円(食食付)/沢水だけで無農薬の米づくりをしています。支援金も募集中(収穫量に応じお米の配分あり)/「問」NPO法人つくば環境フォーラム029-863-5151

筑波山麓自然学校  
夏休みスペシャル 参加費900円  
(流しそつめんの昼食付)10〜15時  
「夏の昆虫観察会」7月21日(土)  
「沢の生きもの観察会」8月4日(土)  
森のガイドウォーク

「白滝ハイキング」参加費700円  
(北条米のおにぎり弁当付)8月18日(土)10〜12時半/「問」筑波ふれあいの里029-866-1519

建築工事・土木工事 設計 施工・管理  
(茨 許可 般 63)11241

# (有)松崎工務店

TEL 029-866-1829  
FAX 029-866-0764  
〒300-4211 つくば市臼井 1980



誇らしげに太鼓をたたく子供たち

記憶に刻まれた太鼓の音  
今でも脳裏に焼きついて離れない記憶がある。あれは小学校5年生の時…。7月、私は神郡の児童館に、初めて祇園の太鼓練習に誘われた。それまで太鼓に触ったことすらない私は、子どもながらに緊張しながら先輩達の太鼓のリズムに必死に耳を傾けた。新人は小太鼓からである。私は小太鼓に目を配る。次第にその音、リズムに心が沸き立ってきた。その時ある先輩が、叩いてみないかと誘ってくれた。歓喜と緊張に板はさみにされながら、必死にリズムを真似する。私が初めて太鼓に触れた瞬間である。幸運にも私はその時、スムーズに音楽の輪に加わることが出来た。それがきつと嬉しかったのだらう。私はその時から太鼓の虜となった。太鼓の一番の見せ場はやはり祇園の山車である。山車の上で太鼓を叩くことは、太鼓を始めてからの私の目標となったのである。

翌年の夏、今度は大太鼓を必死に練習した。大太鼓は、小太鼓に比べて太くズシリとした音である。その練習では、神郡の所謂「近所のおじさん」達が教

えてくれた。普段の見慣れている姿とは違い、華麗な太鼓の腕前を披露してくれるそのギャップに、何とも言えない格好良さがあつた。本番、山車の上で私は、他の太鼓とせめぎあつような緊張感、そして高揚感と同時に、太鼓が作り出す音世界に酔いしれた。  
太鼓の音、それは祭りの音であり、夏の音、そして大自然の神々に呼びかける音でもある。我々で神々を大いに楽しませてあげようではないか。後世まで守り伝えなければならぬ音がここにある。  
遮那有誠(神郡地区)

臼井八坂神社の御神火  
梅雨明けの頃、7月14日(土)15日(日)に、地元で「おかがり」と呼ぶ臼井八坂神社の祭礼が行われる。神社境内の御神火場所に、切った松の太木(男松)を立て、竹をまわして、小麦わらを積み上げ吊す。祭礼前夜(14日)午後8時半頃、三切太鼓の響くなか御神火に火がつけられる。炎が天に昇り、火の粉が上空高く燃え上がるさまは圧巻である。子供たちも神輿を持って参加。天空の神に心を寄せて、静かに、そして時にはキヤーキヤーと騒ぎながら神社をあとにする。翌日(15日)再び集落内を太鼓をたたき神輿を担いで巡幸する。  
諷川隆雄(臼井地区)